



「認知症サポーター養成講座」を受講した総和南中学校2年生

認知症は特別な人に起こる病気ではなく、誰にでも起こる可能性のある脳の病気です。

9月21日は「世界アルツハイマーデー」。茨城県では、平成18年度から毎年9月を「茨城県認知症を知る月間」と定めています。認知症を多くの人が正しく理解し、助け合うことで、認知症の人とその家族も安心して生活できる地域づくりをめざしています。

【問】 高齢者サポートセンター総和
(総和福祉センター「健康の駅」)
☎92-5920

私たちが認知症の人に対してできること

認知症を正しく理解しましょう

認知症についてもっと知りたい

最も大切なのは家族や周囲の人が認知症について学び、理解することです。

市では、認知症について誰もが正しい知識をもち、助け合うことができるよう「認知症サポーター養成講座」の開催や「認知症ガイドブック」の配布を行っています。

ぜひ講座を受講し、またガイドブックを活用して、認知症について正しく理解してみませんか。

■認知症サポーター養成講座

認知症の人を見守り、支援する「認知症サポーター」になりませんか。受講者にはサポーターの証しオレンジリングと修了証をお渡します。



■認知症ガイドブック

認知症の症状に応じて利用できる支援やサービス情報を1冊にまとめました。※市内3カ所の高齢者サポートセンター窓口のほか、市公式ホームページからダウンロードも可。



認知症と単なる「もの忘れ」の違い

認知症の「もの忘れ」	認知症と単なるもの忘れの違い	単なる「もの忘れ」
体験のすべてを忘れる		体験の一部を忘れる
もの忘れの自覚がない		もの忘れの自覚がある
親しい人やよく行く場所がわからなくなる		親しい人やよく行く場所は忘れない
性格に変化がある		性格は変わらない
自分の今いる場所や時間がわからなくなる	自分の今いる場所や時間はわかる	